



## 論 說



# 地方道路に並木植栽を提唱す

三 浦 伊 八 郎

### 一 都會の並木

近時の計畫に成る都市には並木は必要缺くべからざるものである。支那民族、アラビア人、トルコ人、南洋人等の都市には並木がないが白人の都市殊に歐洲大陸の都市では並木は都市美の主要部分をなして居り、又實用上夏期に於て缺くべからざる被蔭物である。我國にも近來都市には並木が多く植えられるが、只道幅が狭いのと電線が張り廻されてある爲、樹冠を小さく刈込む結果、夏も青葉のトンネルを形造らず、點在せる裝飾に過ぎないことは甚だ物足らぬ感がある。

### 二 地方の並木

歐米大都會の郊外には都會の延長として並木が發達して居る。オランダの首都ハーグ市の郊外ワッセナルのブナの並木は其の優なるものであつてハーグ人士日曜の散歩及ドライブの適地である。又マドリドの郊外には傘松の四條並木があり馬車を驅り馬を飛して居る。其の他歐米には屢々郊外並木が見出される。我國大都市の郊外には並木道を見出すことは困難である。

オランダには都市の郊外ばかりではなく、地方農村にも甚だ多く並木を見出すことが出来る。ドイツの前皇帝居住の地ドールンの如きは、ナラブナなどの大木の並木道が四通八達して居る。北アメリカのテュニシール、アルゼリーなどにもナツメヤシやユーカーリの並木道が屢々見出される。

米國の村落は都市以上並木に富んで居る。米國の農村は廣漠たる農地の中に家屋が集團して居るのであるが、其の住民地區に於て中央に自動車道を置き、兩側の民家は各自私有の宅地の奥に家を建て、前の車道寄に樹木を植え、其の内側に歩道を設くるのであつて、之が連絡して立派な並木と歩道が成立つて居るのである。日本人も朝鮮及關東州ではポプラ、ニセアカシアなどの並木道を農地の間に直線に延長し、愉快なドライブウエーを屢々造つて居るが、内地には近來新設の並木道は田舎に見出し難く、却つて東海道北陸道、奥羽街道など舊來の道路に松並木を見出すものである。

### 三 並木の効用

過去の我國の並木は多少實用的効用も加味せられたであらうが、大體存在の場所から考へ一般に

美觀を目的として發達した様である。神社佛閣參道の松、杉、樺、櫻の並木堤防の櫻、柳の並木などが其の例である。近時の都市並木も同様である。然るに歐米の並木は更に大に實用を目的として居る様に思はれる。即ち被蔭が其の主なる効用であり其の他目標防風等もあらう。しかし花が美しく或は果實の食用に適する樹木は寧ろ不適當とせられて居る。

並木の害として堤防破壊の因をなすとせられ、道路を濕潤にし、農地に被蔭を與へ、根を張り以て作物を害し又路幅を過大に要する等が考へられる。

#### 四 並木植栽の提唱

我内地國縣道に一般的に並木を植栽することは勿論困難であるが、しかし比較的害が少く而も効果の著しい場所も少くない。滿鮮の如き廣漠たる平野や、暑い臺灣に並木の必要なることは云ふ迄もないことであるが、我國內地の登山道例へば富士の裾野、阿蘇山などには是非共並木を植栽したいものである。日光戰場ヶ原に白樺の並木を植えることは望ましい。一般平地の國縣道に於ても、原野内、矮林内、海岸、河邊等を通ずる場合並木を作るとは風致を添えるばかりではなく、被蔭樹としての効果は偉大であらう。又新潟縣など冬期雪野を走る道路に並木を作るとも有意義である。要するに地方に現存する松並木の如きは寧ろ厄介視されて居るとしても更にそれ以上に並木を植栽すべき道路が多い。

並木植栽に就て最も注意すべきは樹種を選ぶことである。從來我國の並木は風致本位であつた關係上、地方の並木は櫻を除き殆んど凡てが松杉の如き常綠樹であることは甚だ誤られた事例である。常綠樹は夏は可なるも冬は有害なる被蔭を興へ路面を損し附近及通行人に對して陽光照射を防ぐるの害が甚だしい之は常夏の國の並木樹種であつて春夏秋冬の正しき我内地に於ては必ず落葉樹を選ばねばならぬ。落葉樹は夏期に於ては常綠樹と等しき効果を現はし、冬期は常綠樹の如き害なく春秋は新綠と紅葉の美を呈する。以下少しく地方並木樹種として適當なものを擧げて見やう。

## 五 適當なる並木樹種

並木樹種は一般造林樹種と同様氣候風土により適應を異にする。寒地ではシラカバ、ナナカマド、サンザシ、ハルニレ、イタヤカヘデ、シナノキ、ハクウンボク、トチなどが適當であり、東京以南の地はケヤキ、ブラタヌス、モレノキ、コナラ、イテフ、サクラ、シダレヤナギ、カヘデ、エノキ、センダンなどが好ましい。

以上は一般國縣道に適當するものであるが又都市並木にも適する。若しも神社佛閣などで特に常綠樹を欲するならば、寒地では一位、歐洲唐檜、朝鮮松、ストロブ、五葉松等、暖地では杉、赤松、黒松、樟、椎、モチ、ヒマラヤ杉、南洋杉、廣葉杉、椰等が良し。